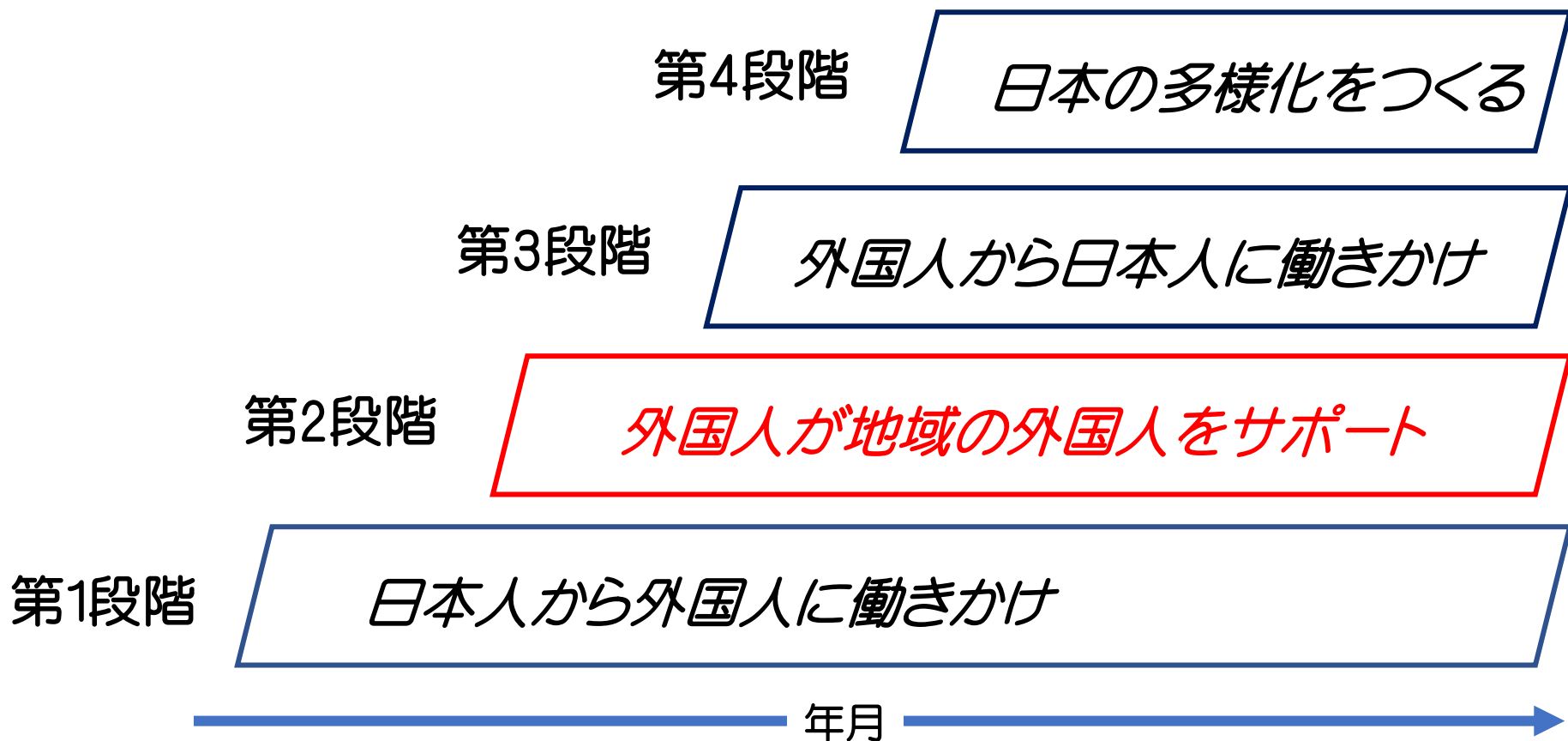


実施事業とそのコンセプト

NPO法人 Gコミュニティ

2021年4月10日

多文化共生により日本人と外国人の関係が多様に発展



多様化: 人々がいろいろな違いを認め合い、新しいことをつくる

(1) 外国人が日本の社会で生きていくために抱えがちな問題 (大人の場合)

日本語力に起因する問題が多い。



日本語がよくわからない

～ 仕事探しを派遣会社にまかせる

日本の生活習慣を学ぶ機会が少ない

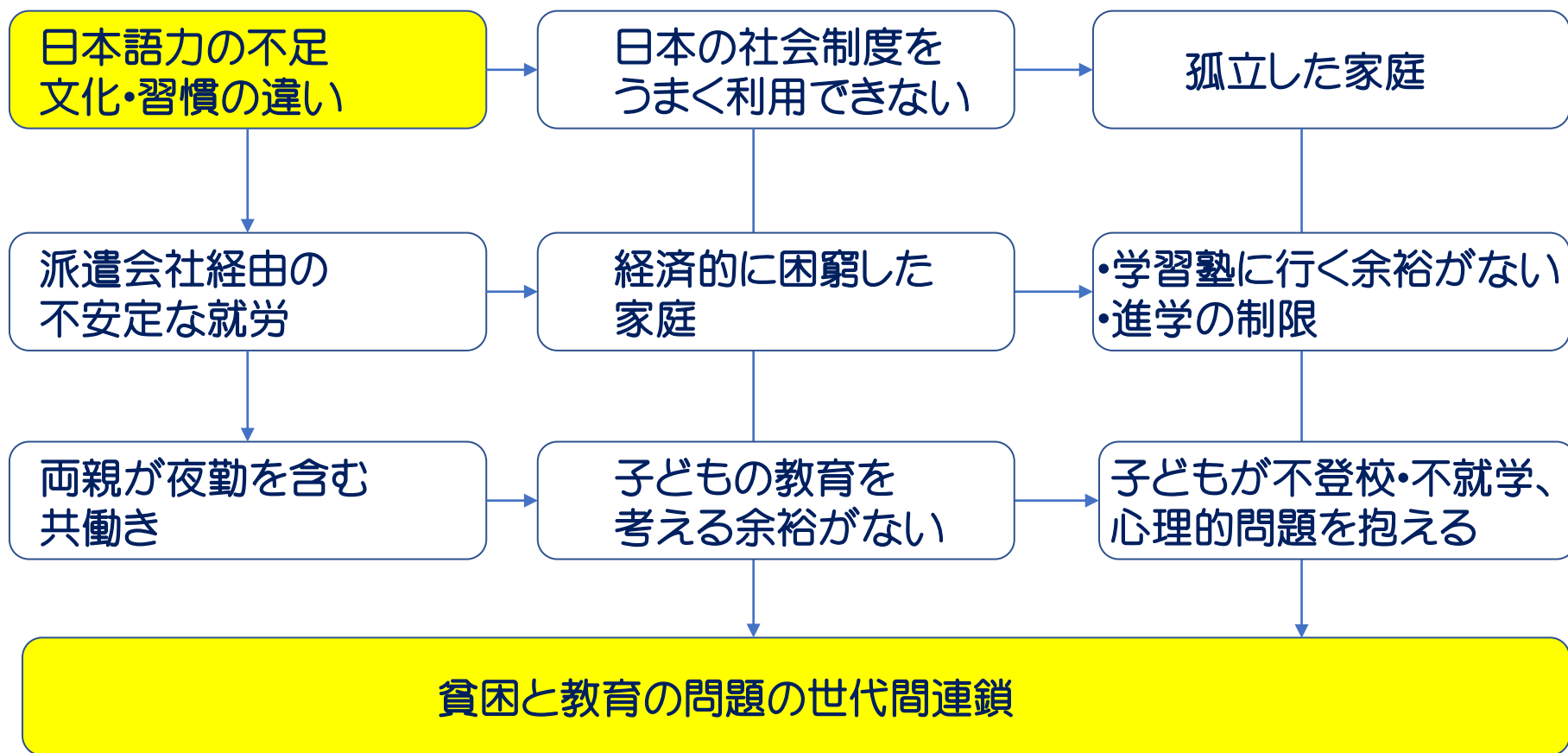
～ 日本人との付き合いが少ない

日本の税金・健康保険などの仕組みが難しい

～ 将来を描きにくい

親が置かれている状況から起きやすい 親の抱える問題

貧困と教育の問題の世代間連鎖



(2) 外国人の子どもが日本の社会で生きていくために抱えがちな問題

日本語力に起因する問題が多い。

日本語の読み書きが不十分

～ 学校の授業についていきにくい

親が日本の学校のことをよくわからない

～ 学校のことを親に相談しにくい

親を見ていても自分の将来を描きにくい

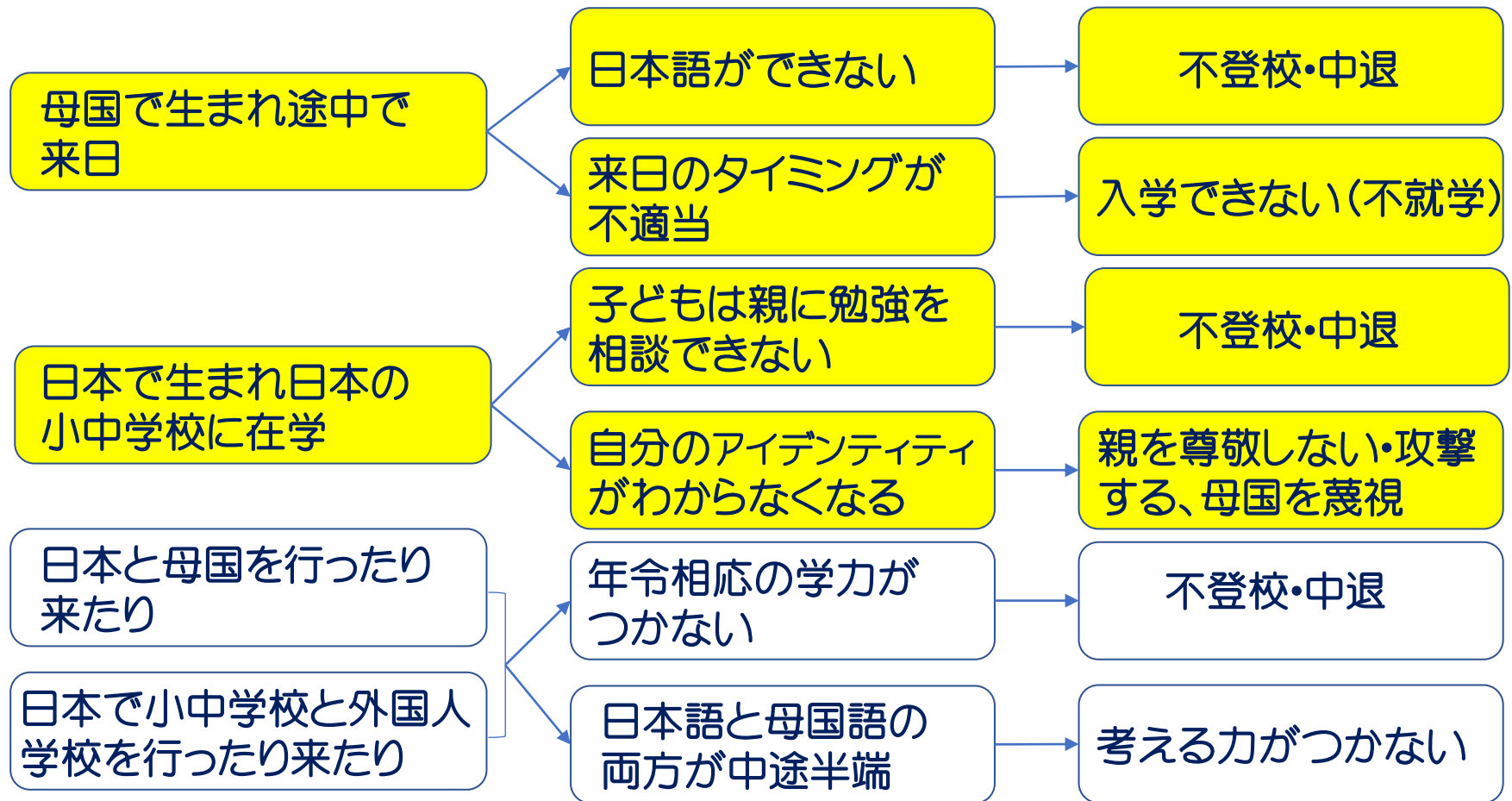
～ 日本の社会での選択肢が少ない



親の事情による移動から起きやすい子どもが抱える問題



子どもの人生の将来の選択肢(進学、職業)がせまい



(3) 日本人が直面する外国人との生活上の問題 (⇒学校の外での外国人児童生徒の環境)

- ① お互いに言語が通じない
 - 相手に言いたいことがあっても伝えられない
 - 相手を知ることができない
- ② 生活習慣の違いによるトラブル
 - ゴミ出し、騒音、バーベキューの煙・におい
 - 不法駐車
- ③ 文化の違い
 - 個人の主張が強い
- ④ 日本人がしたとしてもあまり気にならないことを外国人がするととても気になる
- ⑤ 外国人との関わりでイヤな経験をすると、外国人を嫌いになりがち(外国人にとっての日本人も)

お互いに関わり
たくない傾向が
強い。

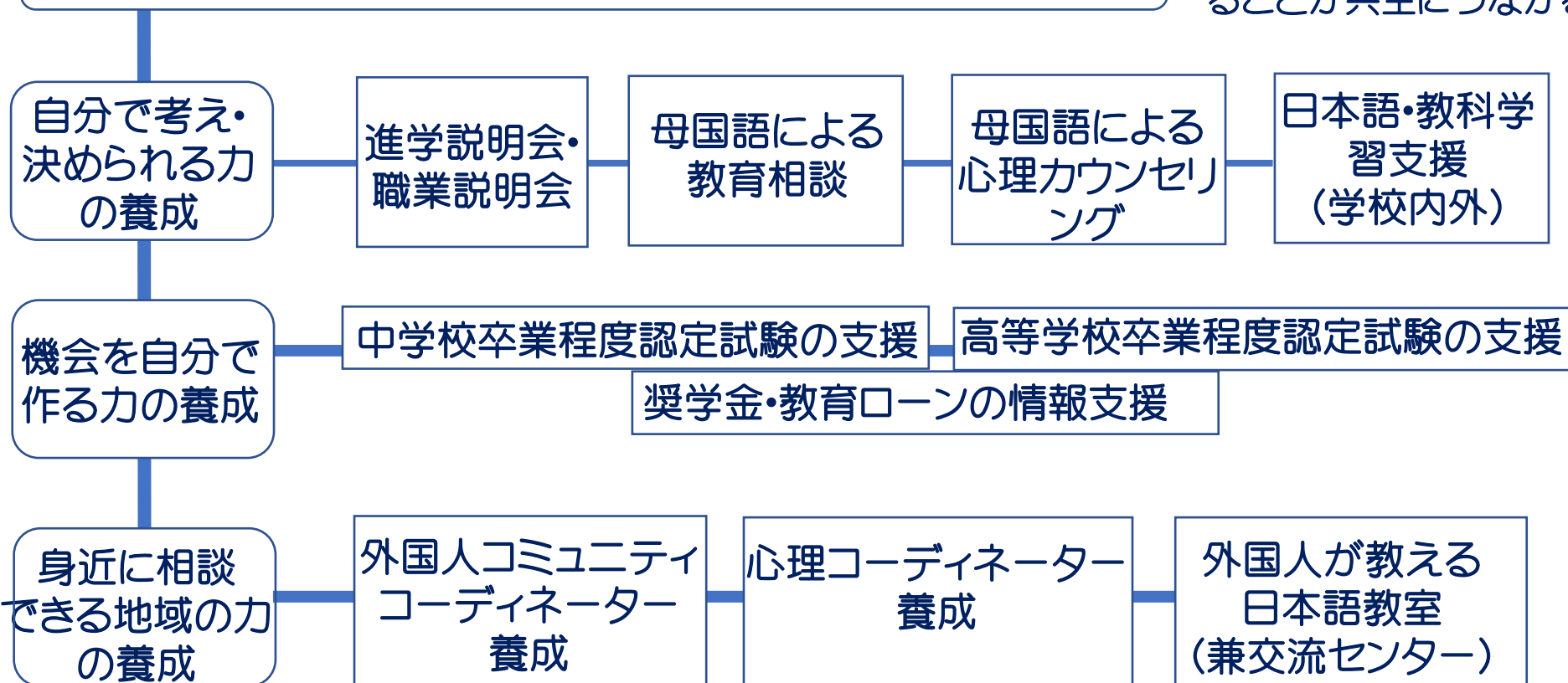
(4) 地域のNPOの取り組み (NPO法人 Gコミュニティほか)

日本語を学ぶことはとても大事です。それに加えて…

外国人の子どもにとって日本語を学ぶことは最終目的ではなく、
自分の人生の選択肢を広げるための道具です

道具を使える環境づくり … 教育支援の広がり

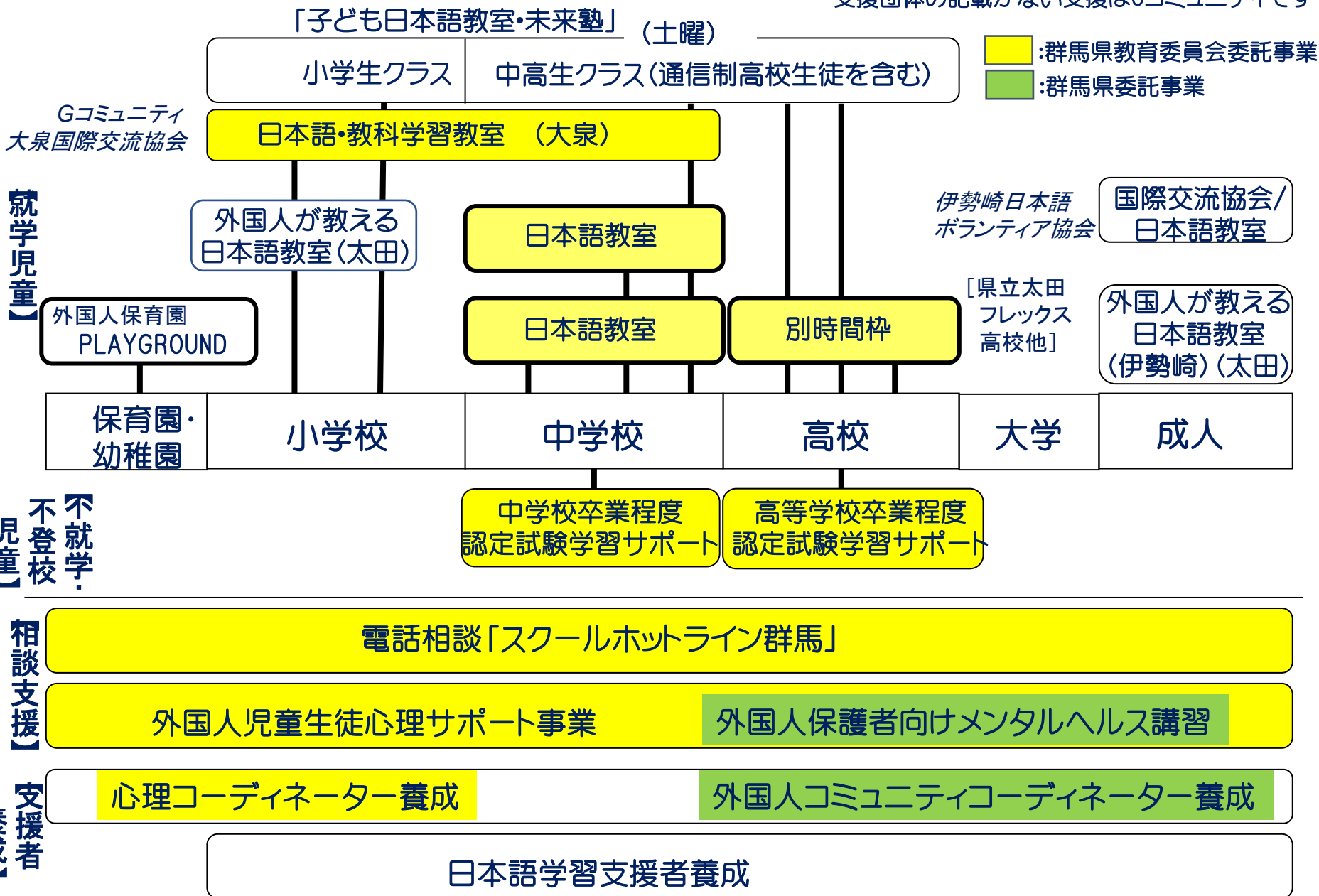
日本社会で一人一人の
将来の選択肢を広げられ
ることが共生につながる。



(5) 民間の活動による外国人児童生徒学習支援の主なとりくみ

NPO法人
Gコミュニティ

支援団体の記載がない支援はGコミュニティです



■:群馬県教育委員会委託事業
■:群馬県委託事業

(5.1) 母国語による教育相談、心理カウンセリング

(2015年度～現在7年目)

- … 母国語(ポルトガル語、スペイン語、英語)対応による支援
- … 教育委員会、学校、発達支援センターとの連携
- … 母国語対応できるコーディネーターによる円滑な支援

母国語による教育相談 延べ223名
(スクールホットライン群馬)

- 電話相談
(月)～(土)夜9時まで可能
- 面談 •訪問同行 •メール

主な相談内容

- 日本語・教科学習
- 進学・受験 •教育資金
- 入学・編入 •不就学・不登校

延べ174名

母国語による心理カウンセリング

- 毎月各1回
 - ① スペイン語、英語、日本語
 - ② ポルトガル語
- 1回で終わることはなく、中長期にわたる

主な相談内容

- 不登校 •学校・家庭内で暴力・不適応
- 自閉症 •発達障害 •離婚が児童へ影響
- 親子コミュニケーション

(5.2) 地域のコーディネーター^{*}養成

(2015年度～現在7年目)

*問題を把握し、専門家・専門機関につなぐ人

- … 近くで最初に相談できる
どこに相談したらよいかわからず深刻化するのを防ぐ
- … 受講者の中から地域のキーパーソンを見出す

延べ79名

外国人コミュニティコーディネーター

延べ127名

心理コーディネーター

- 養成講座
8回講義のシリーズを毎年1回
- 質疑応答を重視
- 有志が「外国人が教える日本語教室」

- 養成講座
5回～7回講義のシリーズを年1回
- 講師: 大学の専門家
- 受講者は外国人及び日本人

今までの主な講義テーマ

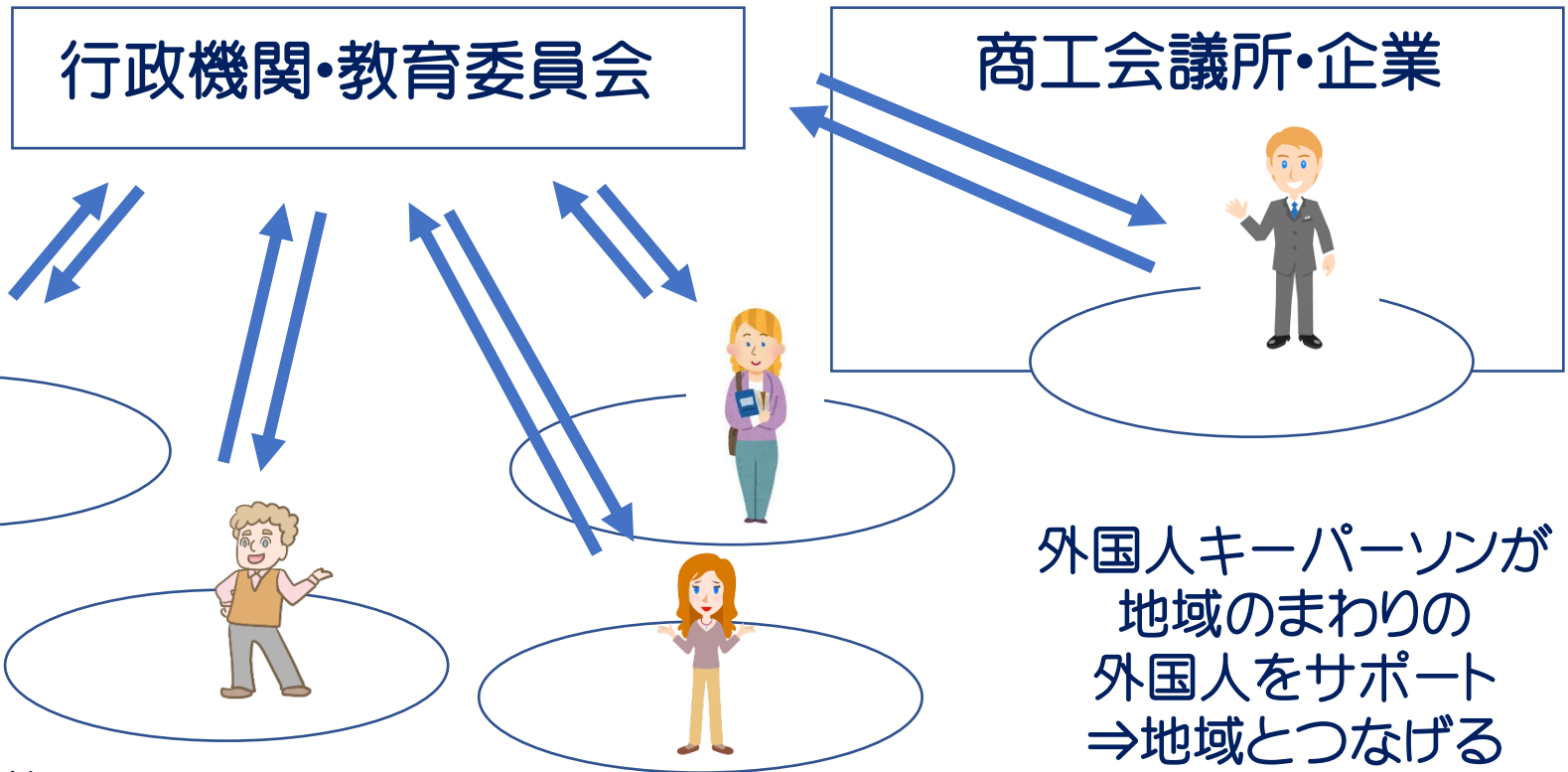
- 社会制度(学校、税金、健保、年金)
- 病院 ・住居 ・日本語指導法 ・介護
- 民生委員 ・少年院 ・児童相談所

今までの主な講義テーマ

- 発達障害 ・病の見分け方と支援
- 家族の心理支援 ・ケーススタディ
- 支援者のメンタルヘルス

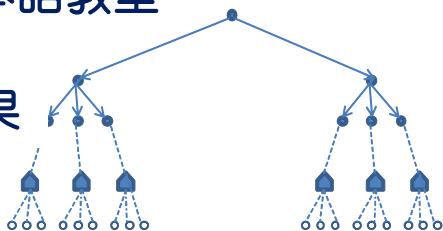
(6)外国人キーパーソン^{*}育成による自発的ネットワーク

* 日本語能力が高く、日本の社会制度の基礎知識を持つ。日本語指導力もある。



外国人が教える
日本語教室

波及効果



外国人の大人が日本社会との関わりに
自信を持つことが、子どもに良い影響を与える

(7) 在住外国人の増加に伴う地域の溝の拡大を防ぐ

⇒ お互いの違いを知ること、新たな「**近助**」になる

概念

- 多様性は良い
- 違いを認め合う

制度

- 社会制度
(税金、年金、健保他)
- 教育制度

生活習慣・文化

生活レベルの溝が
広がるままであると、
多文化共生が足元
から崩れかねない。

… 騒音・ゴミ出しなど**生活習慣**
レベルの違いが溝を作る

今後、外国人が増えるにつれて
積極的に交流したいと思わない
日本人との溝が顕在化するのでは。

これを**ポジティブなものに転化**
をさせる交流・考え方により**問題を予防**
する

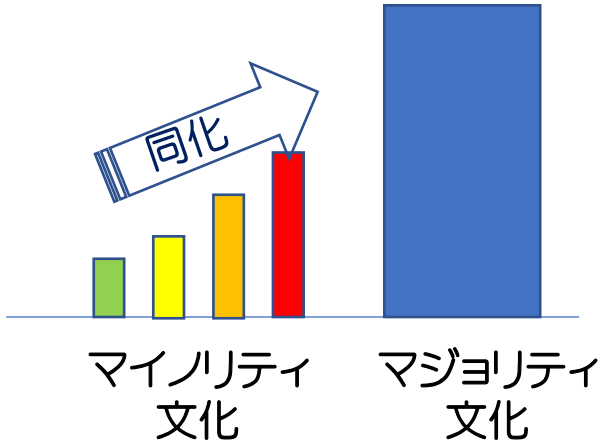


知識・情報の習得

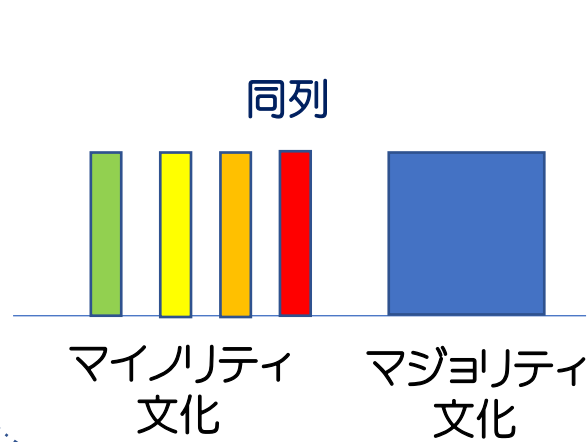
体感する交流

(8) 概念

【同化主義】
(フランス)

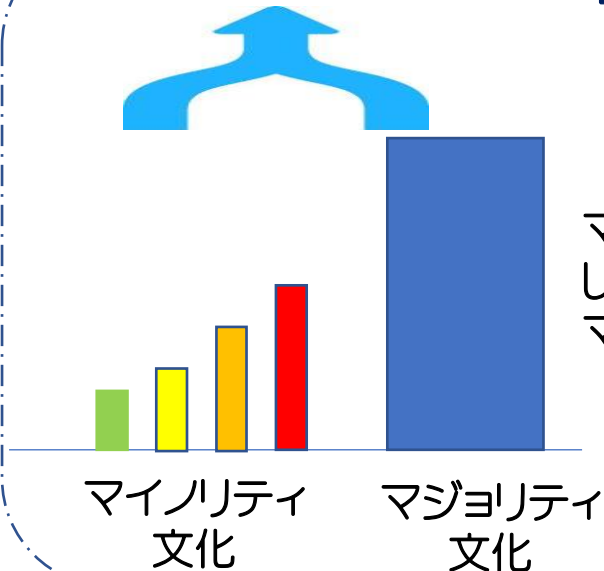


【多文化主義】
(カナダ)



新たに共通文化も創る

【インターカルチャリズム】
(多文化交流主義)
または(間文化主義)



マジヨリティ文化をマジヨリティとして認め、マイノリティ文化はマイノリティ文化として認める

日本に適しているのは
インターカルチャリズム
と思われる。
日本版のインターカル
チャリズムを作る
のが良いのでは。